

明治初期の岡垣の物産①

—松茸も採れた自然豊かな岡垣—

岡垣歴史文化研究会 石田 健次

明治初期における岡垣の物産は、「福岡県地理全誌」で知ることが出来る。この中にある「遠賀郡」の部は明治6（1873）年から2年をかけて調査されたものである。

調査事項の中には附記として「物産」の項目があり、村ごとの「生出」と「輸出」に分けて書かれている。「生出」には村で生産されている品目と収穫高が、「輸出」には出荷された生産品の販売品目名とその販売数量・金額が書かれている。明治の初期にあった岡垣の村々の物産が詳細に書かれている。これらの村は、明治22（1889）年に岡垣村と矢矧村が誕生するまで続いた。

岡垣の物産の品目を見ると、「生出」には30以上の品目が、「輸出」には70以上の品目が書かれており、当時の岡垣では多種多品目の農産物があったことが分かる。明治初期にこれほど多くの農産物などが栽培・出荷販売されていたのには驚かされる。これらの農産物は、

元文3（1738）年に編集された

「筑前国産物帳附絵図帳」に多くが掲載されていることから、江戸時代には既に栽培されていたことが分かる。

【「福岡県地理全誌」に掲載されている岡垣の物産】

●米、麦、大豆、小豆、豌豆、蕎麦
これらは主要な農産物であり、全ての村で栽培されていた。一部の村では出荷し販売された。

●粟
粟も主要な穀物であり、松原村以外の各村で栽培された。糠塚村、手野村、野間村、高倉村では出荷している。

●鶏、鶏卵
鶏は全ての村で飼育し、鶏卵は全ての村で出荷されている。

●榎実
榎は江戸時代から植栽が奨励されていた。原村、松原村、戸切村以外の各村で栽培されており、岡

垣全体では約11万8000斤（約7000キログラム）を出荷していた。糠塚村、内浦村、海老津村ではこの榎実から抽出した生蠟を出荷している。また、糠塚村、吉木村では蠟燭に加工して出荷していた。

●綿
波津村を除く各村で綿が栽培されていたが、出荷はされていない。このことから、各村では綿から糸を紡ぎ、染めて機織りし、野良着等に仕立てていたと思われる。

●茶
波津村、松原村を除いて各村で栽培されていた。糠塚村、吉木村、高倉村では出荷しているが、その

他各村では各家で製茶するなど自家消費していたと思われる。

●紅花
糠塚村、山田村、吉木村、高倉村、海老津村で栽培されていたが、収穫量は多くはなかった。染料等に利用するなど自家消費として使われていたと思われる。

●煙草
波津村と松原村を除く各村で栽培されていた。一部は嗜好品として自家消費されていたと思われる。

●松茸
山田村、黒山村、野間村、海老津村、戸切村で合計535斤（約320キログラム）を出荷していた。岡垣地域以外の遠賀郡内では、竹並村、乙丸村、小敷村（いずれも現・北九州市若松区）で出荷されていた。

●松露
食用きのこである松露は、糠塚村と手野村で採られている。特に糠塚村は1石3斗（約195キログラム）を出荷している。岡垣地域以外では芦屋町で出荷されていた。次回は、村ごとに物産を見ていくこととする。

つづく



▲福岡県地理全誌